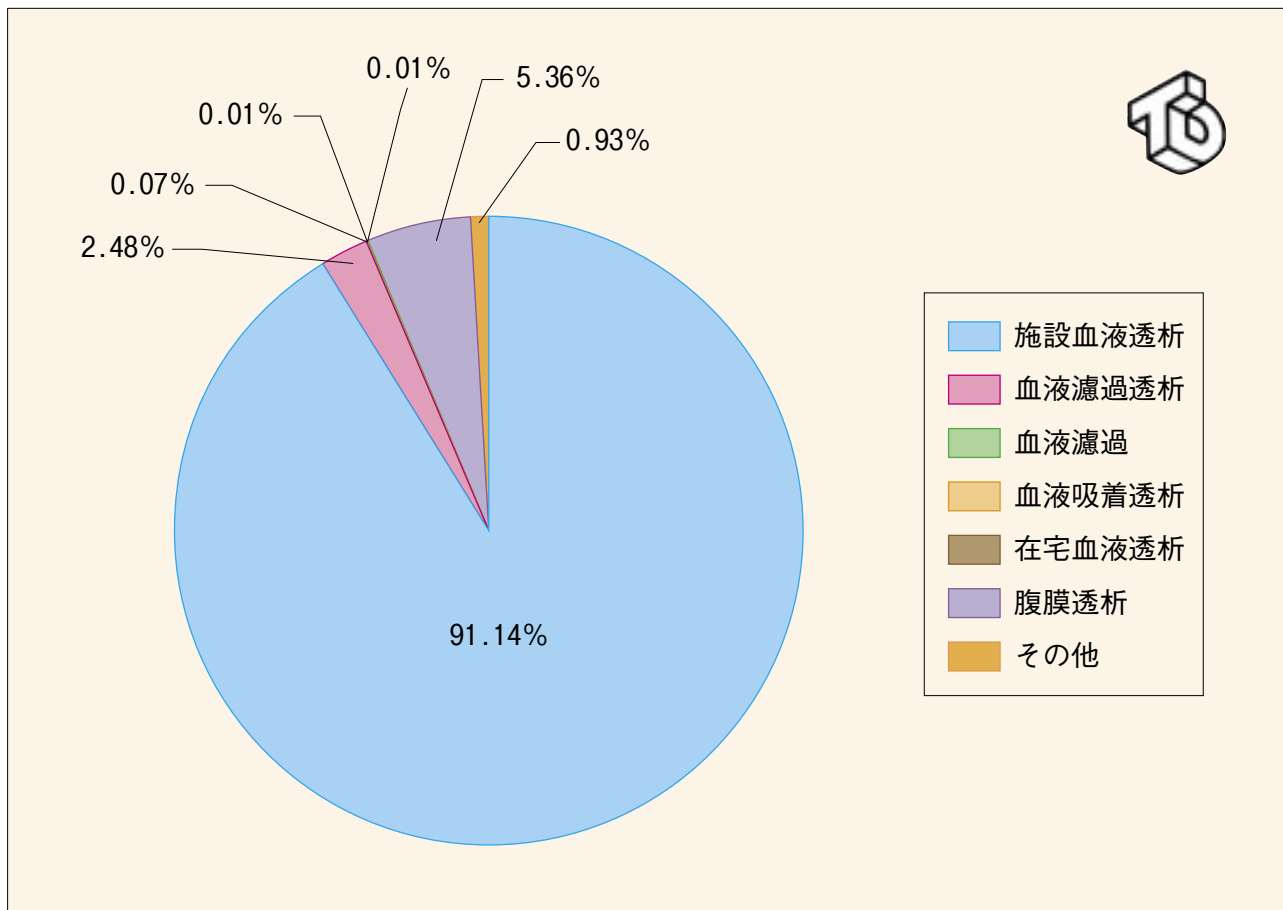


5) 新規透析導入患者の現状

2007年度は昨年に引き続き透析導入時検査データ、導入時病態の調査を行った。ここでは調査内容の一部として、末期腎不全治療として選択した治療法、透析開始時腎機能、ならびに透析開始時の主要症状を示す。

(1) 本年度導入調査対象の年末時点での治療形態 (図表42)



| 治療方法 | 施設血液透析 | 血液濾過透析 | 血液濾過 | 血液吸着透析 | 在宅血液透析 | 腹膜透析 | その他 | 合計 | 記載なし | 総計 |
|------|--------|--------|------|--------|--------|-------|------|--------|------|--------|
| 患者数 | 27,832 | 757 | 22 | 3 | 3 | 1,636 | 283 | 30,536 | | 30,536 |
| % | 91.14 | 2.48 | 0.07 | 0.01 | 0.01 | 5.36 | 0.93 | 100.00 | | |

患者調査による集計

解説

調査対象は、本年度新規透析導入患者のうち、透析導入調査に協力をいただきFDにより回答をいただいた透析導入患者30,536名（男性19,760名、女性10,775名、性別不明1名）で、腎機能等の調査では、その中で個人調査に透析導入時検査データ等の記載のある17,839名で解析を行った。昨年度より、詳細データまで入力して、透析導入調査にご協力いただいた患者数が2,000人程度増加した。

本年度の透析導入患者の年末時点での治療方法を示す。全体の91.1%が血液透析を5.36%が腹膜透析であった。透析方法の比率は昨年に比べ血液濾過透析、腹膜透析を施行されている患者が若干増加した。